

早期修了プログラム達成度評価シート【教員用】

提出日: 令和 年 月 日

学生氏名:

所属: A 博士の学位にふさわしいレベル

指導教員名: B 修士の学位レベル

専門分野: C 学士の学位レベル

評価教員名(複数可):

	コンピテンス		評価の観点	評価レベル				評価の根拠	各学位プログラムでの特記事項等
	名称	説明		入学時 審査時	中間 審査時	予備 審査時	最終 審査時		
1	工学基礎力	工学分野の研究者または高度専門職業人にふさわしい知識と学力	① リスク・レジリエンス工学分野の幅広い基礎知識を有しているか ② リスク・レジリエンス工学分野の高度専門職業人としての高い学力を備えているか ③ リスク・レジリエンス工学分野の学術的成果を有しているか	A				リスク・レジリエンス工学のリスク・レジリエンス基盤分野として、メタ戦略に関する十分な知識と基礎能力を有していることが論文から判断できる。国際誌に論文発表していることも評価できる。また査読付き学術雑誌論文2編、国際会議論文5編は十分な成果であると判定する。	
2	理論的基盤・関連技術に関する知識	工学基礎力をベースにしたリスク・レジリエンス解析・評価のための理論的基盤の知識、並びにリスク・レジリエンス解析・評価に関連する高度な情報処理技術の知識	① 複雑な現象に内在するリスクを解析し、レジリエンスの観点から評価するための理論的基盤を修得しているか ② 複雑な現象に内在するリスクを解析し、レジリエンスの観点から評価するための高度な情報処理技術を修得しているか	A				申請者が主張しているように、申請者の研究領域の広さからみて、リスク・レジリエンス基盤関連分野についても博士レベルと判定して差し支えない。	
3	現実問題に関する知識	リスク・レジリエンス工学が対象とする現実の問題に係る深い知識	リスク・レジリエンス工学の対象である多様な現実の問題に関する深い知識を有し、様々な領域における研究課題に対して評価する力を有しているか	A				申請者の主張は研究履歴からみて、現実の問題に接し、十分な知識を有していると判定できる。	
4	広い視野と俯瞰力	リスク・レジリエンス工学の対象を広い視野で捉える能力	リスク・レジリエンス工学の対象を捉えるための広い視野を有しているか	A				申請者の主張は正しいと思われるが、工学倫理あるいはリスクマネジメント関係を強化することによって、万全となる。	
5	問題設定・解決能力	リスク・レジリエンスにかかわる問題について、問題設定から工学的手段による解決までのプロセスを理解し、具体的解決手段を考案・開発する能力	① 専門的応用能力である問題設定から独創的解決までのプロセスを広く理解し、実社会の問題を見据え、独創的方法によって具体的解決に導くことができるか ② 研究プロジェクトを実施し、研究成果にまとめていく技量を有しているか ③ 研究者倫理および技術者倫理について十分に理解し遵守しているか	A				申請者がこれまで行ってきた開発プロジェクトは、いずれも問題設定から解決までのプロセスを理解し、解決に導くという過程を必要とする。従って、十分な経験を有していると判定できる。	
6	グローバル・コミュニケーション能力	研究チームや研究プロジェクトのなかで、与えられた役割分担を果たし、高いコミュニケーション力をもってリーダーシップをとる能力	① 自らの研究や専門知識について、十分な語学力をもってプレゼンテーションを行うことができるか ② アドバイザーとしてグループ研究活動にコミットしたり、リーダーシップをとりつつ、自らを含む学生相互のコミュニケーションを促すことができるか	A				申請者の主張と、発表リストを照合し、いずれも筆頭著者であることから、学会発表におけるプレゼンテーション経験は十分であることがわかる。申請者が主張するように、国際学会での発表経験は十分である。	

注1: 評価については、「A(博士の学位にふさわしいレベル)」、「B(修士の学位レベル)」、「C(学士の学位レベル)」を基準として自己評価を行う。

注2: すでに「A」評価とされた項目については、「評価の根拠」欄に「達成済み」と記載すること。更なる特筆すべき事項(新規能力の獲得、公表論文数や学会発表数の増加など)がある場合はシートの内容を更新してもよい。

注3: 入学時審査時に「C」評価とされた項目がある場合は、プログラム履修生として不合格とする。

注4: 予備審査終了時には、全ての項目について「A」評価であることが必要である。